

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	A-710	15-117 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Genetic vs Environmental Factors That Correlate With Rosacea: A Cohort-Based Survey of Twins. 酒さと遺伝要因または環境要因の関連：双生児を対象としたコホート研究		
執筆者		
Aldrich N, Gerstenblith M, Fu P, Tuttle MS, Varma P, Gotow E, Cooper KD, Mann M, Popkin DL.		
掲載誌		
JAMA Dermatol. 2015 Nov;151(11):1213-9. doi: 10.1001/jamadermatol.2015.2230.		
キーワード		PMID
酒さ、双生児、遺伝、環境		26307938
要 旨		
<p>目的： 遺伝要因の酒さへの影響の有無と定量的評価、および遺伝要因を調整した環境要因の寄与を一卵性と二卵性双生児のコホートを用いて検証すると共に、酒さの危険因子を調査する。</p> <p>方法： 例年ツインバーグにて開催される Twins Days Festival にて、2012 年および 2013 年の参加者から 18 歳以上の双生児 550 名(275 組:一卵性 233 組、二卵性 42 組)を対象とした。認定を受けた皮膚科医が National Rosacea Society(NRS)grading sysem を用いて、対象者の酒さのスコアを評価した。生涯紫外線曝露量は夏の屋外での活動時間を聞き取り算出した。NRS スコアへの遺伝要因および環境要因の寄与率は ACE モデルを用いて解析した。また、NRS スコアをアウトカムとして単変量および多変量回帰分析を行った。</p> <p>結果： 平均 NRS スコアは一卵性双生児で 2.46、二卵性双生児で 0.75 であった。NRS スコアについて双生児同士での相関がみられ、一卵性では二卵性よりも強い関連がみられたことから (r=0.69 vs r=0.46; P=0.04)遺伝要因の寄与が示唆された。ACE モデルを用いて算出した遺伝要因の寄与率は 46%であった。NRS スコアは、年齢(r=0.38;P<0.001)、生涯紫外線曝露量(r=0.26;P<0.001)と正の関連が見られ、これらの関連はプロペンシティブスコアにより多重共線性を調整しても確認された。その他に、BMI(r=0.21;P<0.001)、喫煙(r=0.10;P<0.02)、飲酒量(r=0.11;P=0.01)、心血管系疾患(r=0.17;P<0.001)、皮膚がん(r=0.19;P<0.001)との相関が認められた。</p> <p>結論： 本研究によって、NRS スコアへの影響の半分程度は遺伝的要因、残り半分は環境的要因であることが示唆された。また、酒さと紫外線曝露、飲酒量、喫煙、皮膚がんの併存、心血管系疾患の併存、年齢が相関することが確認された。</p>		